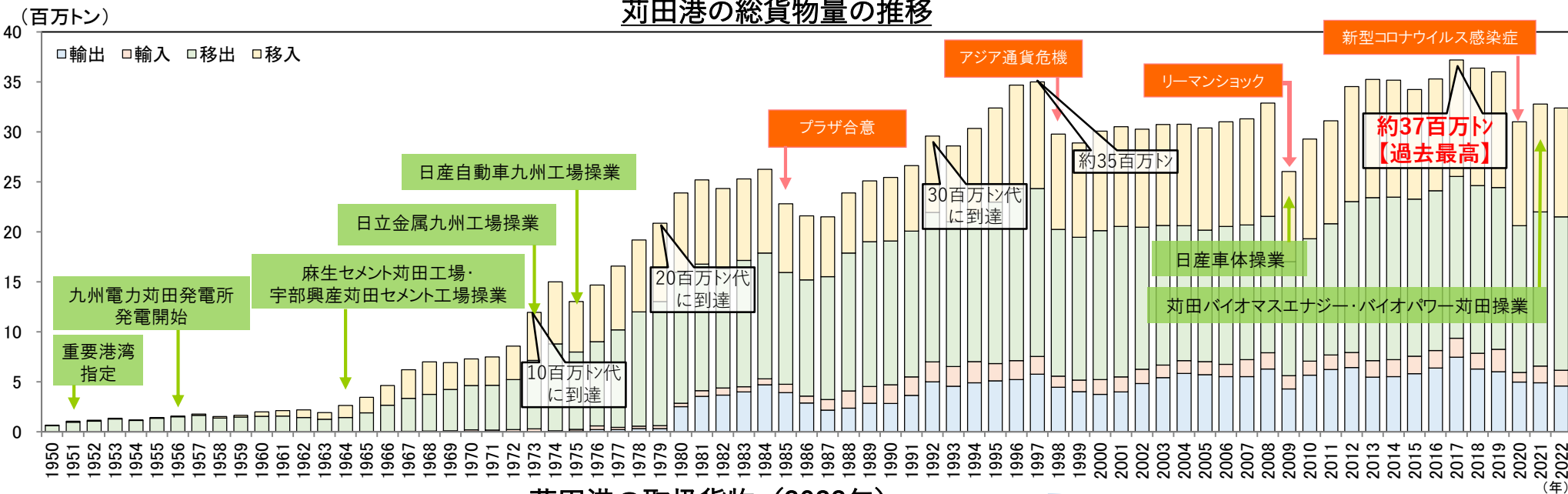


■ 苅田港の取扱貨物等の概要

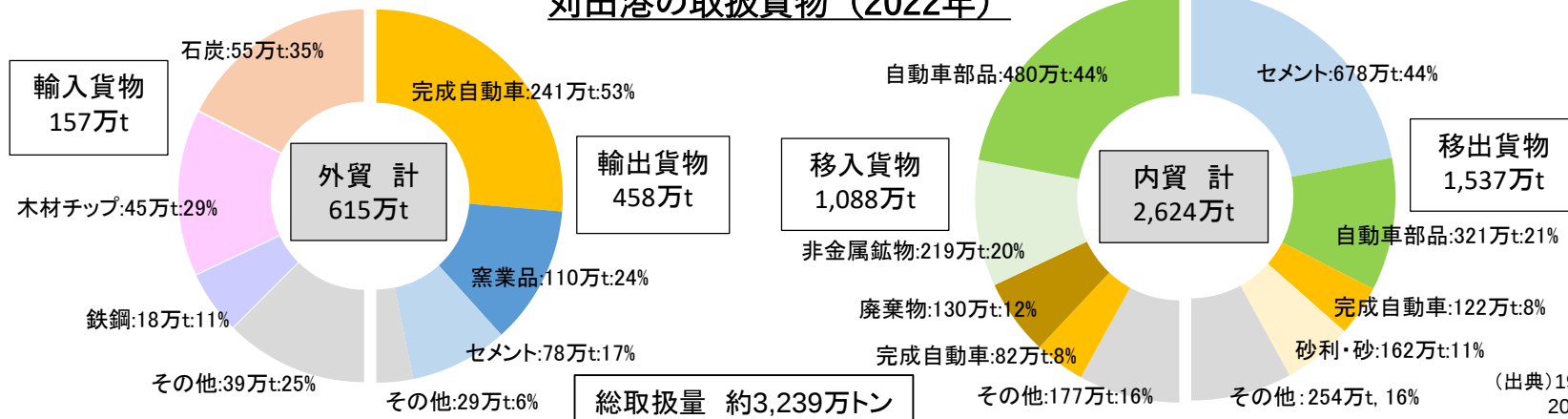
・ 取扱貨物

- 苅田港の取扱貨物量は、1970年代から1990年代にかけて大きく増加し、世界的な経済不況等の影響を受けながらも、増加傾向を維持し、2017年に過去最高の約3700万トン記録した。
- 苅田港の太宗貨物は、石炭(輸入)、完成自動車(輸出)、自動車部品(移入)、セメント(移出)であり、苅田港の臨海部に立地する電力、セメント、自動車関連企業等が取扱っている。

苅田港の総貨物量の推移



苅田港の取扱貨物 (2022年)

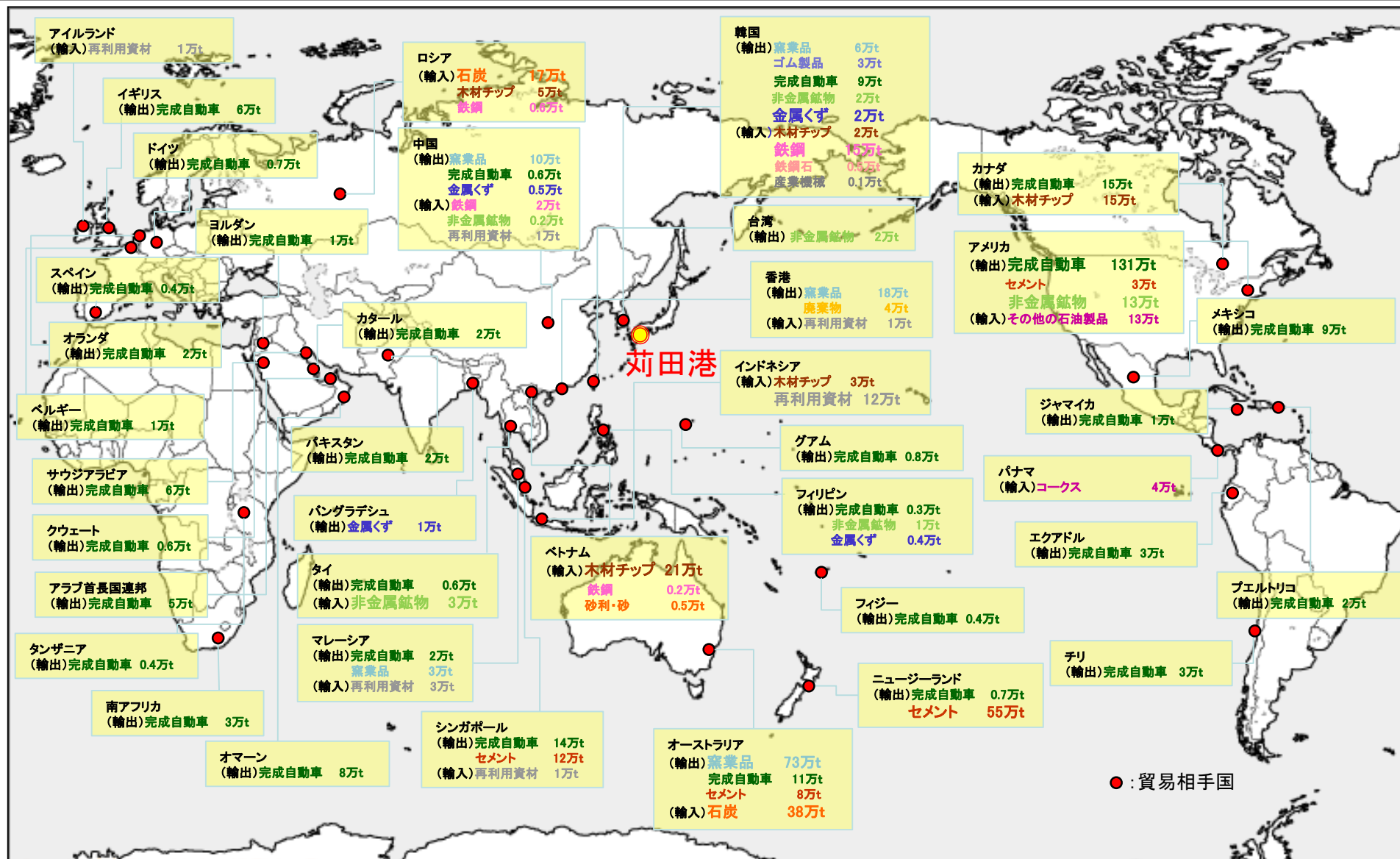


(出典) 1950年～2021年は港湾統計年報、
2022年は福岡県苅田港要覧より作成

■ 苅田港の取扱貨物等の概要

・ 外国貿易相手国

○苅田港の外国貿易（2022年）は、**39カ国**に渡って行われるなど、北米、中南米、アジア、中東、ヨーロッパ（ロシア）、オセアニア、アフリカの**世界の広い地域に及んでいる**。



■ 苅田港の取扱貨物等の概要

・ 定期航路

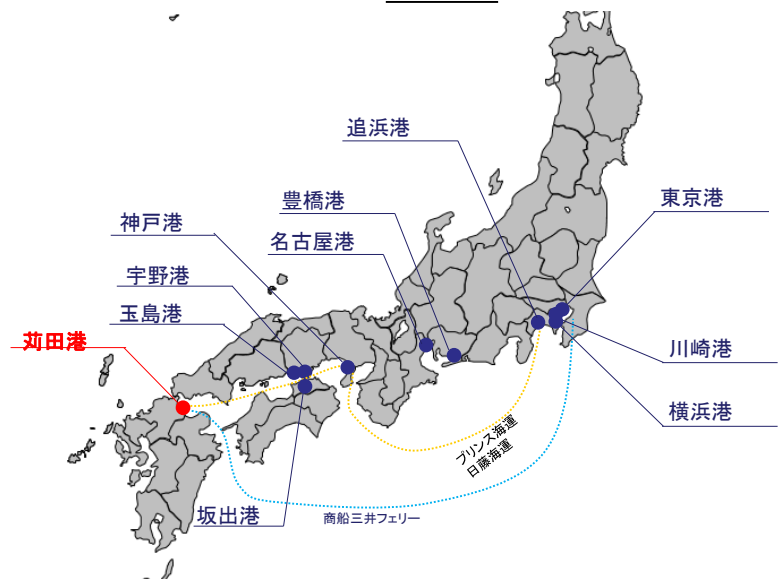
○ 苅田港南港地区では、3社の定期航路が就航しており、商船三井フェリーは、一般貨物、中古車、自動車部品等を輸送し、日藤海運・プリンス海運は、日産自動車の完成自動車、自動車部品等を輸送。

なお、一般貨物や自動車部品等は、主にシャーシに搭載され輸送。

苅田港の定期航路（2023年8月1日現在）

運航者	寄港地	苅田港寄港船舶	便数
商船三井フェリー(株)	苅田～(宇野)～(坂出)～東京	むさし丸・ぶぜん・すおう	5便/週
日藤海運(株)	苅田～玉島～追浜～神戸～苅田～追浜～神戸	日王丸・日清丸・日昇丸・日侑丸	2便/週
	苅田～追浜～神戸～苅田～横浜本牧～追浜		2便/週
	苅田～神戸～豊橋～追浜～川崎～名古屋～豊橋～坂出～玉島～広島		1便/週
	苅田～玉島～豊橋～追浜～川崎～名古屋～豊橋～坂出～玉島～広島		1便/週
プリンス海運(株)	苅田～神戸～横浜本牧～(追浜)～神戸～苅田～追浜～神戸	デイブレイクスベル	2便/週

航路図



【シャーシ輸送】

シャーシ輸送は無人航送となるため、トラックドライバー不足や高齢化等、将来的な輸送力不足への対応にも資するもの

投入船舶



(出典) 商船三井フェリーHP



(出典) プリンス海運HP



(出典) 日藤海運HP



船舶にシャーシのみを搭載し海上輸送

■ 苅田港の主な物流機能

・ 九州最大の自動車メーカーが利用する海上輸送拠点

- 九州北部には自動車メーカー大手 4 社の自動車製造工場が立地しており、国内全体の約 2 割に相当する、年間約154万台の生産能力を有している。このうち 2 社の工場が苅田港の臨海部造成地に立地し、苅田港は九州最大の自動車生産拠点となっている。
- 苅田港は、自動車部品の調達や完成自動車の出荷など、九州最大の自動車メーカーが利用する海上輸送拠点としての機能を果たしている。

九州の自動車生産基地(組立工場)

福岡県 苅田町	大分県 中津市	福岡県 宮若市
日産自動車九州 日産車体九州	ダイハツ自動車 九州 中津工場	トヨタ自動車九州 宮田工場
生産能力 約65万台	生産能力 約46万台	生産能力 約43万台

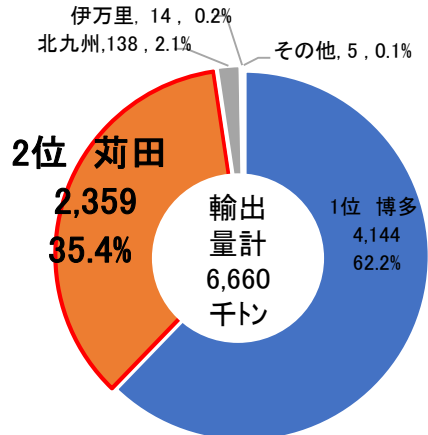
苅田港南港地区の整備と利用状況

注) 経済産業省「生産動態統計年報」

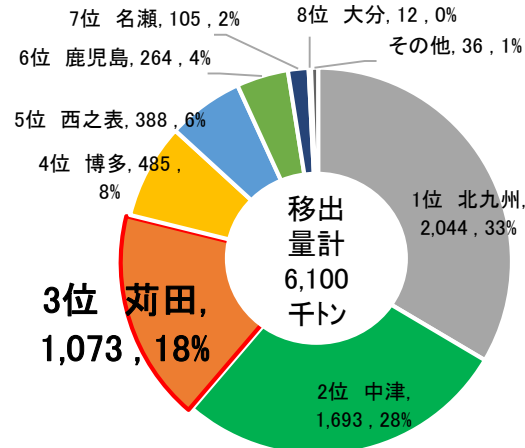


(出典) 福岡県HP「北部九州自動車産業アジア先進プロジェクト (2021.9)」

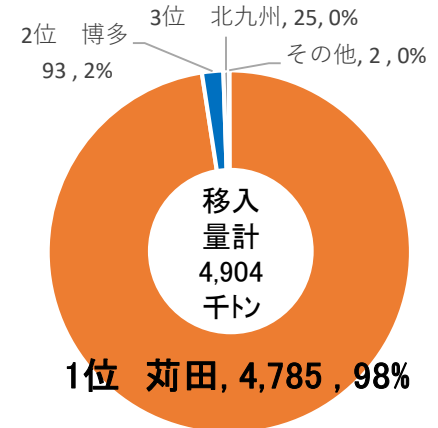
九州の港湾の完成自動車の輸出量



九州の港湾の完成自動車の移出量



九州の港湾の自動車部品の移入量



(出典) 港湾統計2021年

■ 荻田港の主な物流機能

・ 国内最大級のセメント生産基地の海上輸送拠点

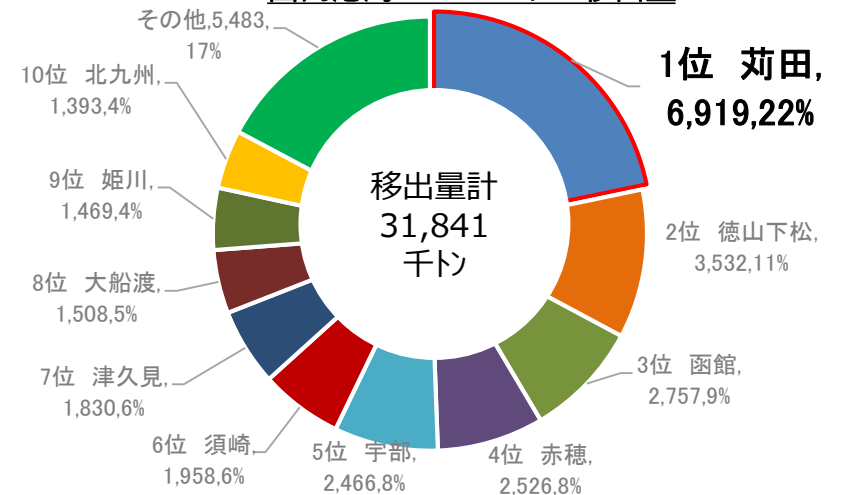
- 荻田港の臨海部には、国内最大の生産能力を有するセメント企業をはじめ、関連企業が立地・集積している。
- セメント原料の調達やセメント製品の出荷は、主に荻田港本港地区の岸壁が利用され、そのセメント移出量は、国内港湾でトップシェアであり、関東地方、近畿地方などの全国各地へ供給されている。
- 荻田港は、国内最大級のセメント生産基地の海上輸送拠点としての機能を果たしている。

荻田港本港地区の整備とセメント関連企業の状況

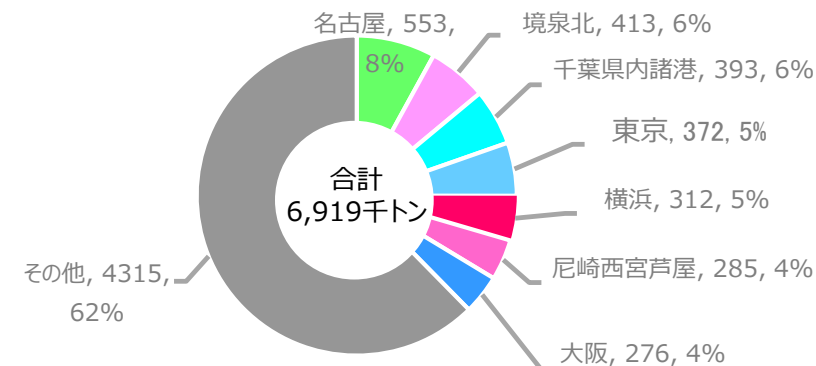


荻田港のセメント生産工場では、九州・瀬戸内地方からの廃棄物等を受入れ、セメント生成過程で処理しており、循環型社会形成に貢献

国内港湾のセメントの移出量



荻田港からのセメントの移出先



(出典) 港湾統計2021年